

合唱フェスティバル、3年ぶりに一般公開！

2022年12月18日（日）、カナモトホール（札幌市民ホール）にて、「第25回 北海道小学校合唱フェスティバル」を開催いたしました。8校の合唱団が出演し、ホールに子どもたちの歌声が響きました。なお、座席管理・消毒・換気など、感染症対策をしっかりと行って実施いたしました。感染症の影響で、一昨年は中止、昨年は関係者限定での開催でした。人数などの制限なく、保護者の皆さんや先生方に参加してもらえたのは3年振りとなります。

【出演校】

札幌市立札幌緑小学校

札幌市立平岡中央小学校

札幌市立幌西小学校

札幌市立月寒東小学校

札幌市立美しが丘小学校

札幌市立東白石小学校

江別市立江別太小学校

札幌市立月寒小学校

今回は、合唱団の演奏だけでなく、お二人の講師による公開指導を行い、合唱団の子どもたちへの指導を通して、先生方も学ぶことができました。



きむらのりこ 木村範子先生（声楽家・本会顧問）

発声についてご指導いただきました。声を届ける方向の意識、ブレストレーニングの方法などを教えていただきました。



【講評より】

- 発声は目的ではなく、あくまでも手段。いい音楽、自分で納得する音楽をつくるため。感動を届けるため。
- 体が楽器。発声をしっかりとすると、いろんな表現ができる。「こう歌いたい」が叶うように。
- 一つ一つのパートが全部まとまって、音楽をつくっている。
- このステージで歌えたこと。たくさんの人々が関わって実現している。感謝の気持ちを大切に。感謝の気持ちは歌に表れ、みずみずしく、いい歌声になる。これからの成長を楽しみにしている。

あだちつよし 足立教先生（札幌市立美しが丘緑小学校校長、本会副会長）

曲想について、ご指導いただきました。曲の言葉や背景に着目して、表現方法について、教えていただきました。

【講評より】

- 歌は、言葉がついている唯一の音楽。言葉を音楽に乗せて。
- 練習するときには、歌詞と音楽を分けて考える練習もある。
- 気持ちや景色の想像で、声の音色が変わる。
- 体と心はつながっている。感じたことをストレートに表現できる。
- 楽譜を見て、音符から発見できることを大切に。なぜ長い音？強弱や速度の変化はなぜ？など、宝の地図を見るように。
- いろいろな経験、挑戦をすることで、「わかるな」と共感して表現できる場面が増える。

